

分野:社会保健医学

主科目 副科目	がん医療経済学 Medical economics in cancer treatment	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
一					
一					
一					
がん医療経済学 I (1年次)		がん医療経済学 II (2年次)		がん医療経済学 III (3年次)	
	単位 4単位 配当年次 1年・通年	単位 4単位 配当年次 2年・通年	単位 4単位 配当年次 3年・通年		
概要	がん医療に関する費用区分に関する講義を行ったのち、以下の演習・実習を行う。 1)医療費用算出に関する演習 2)非医療費用算出に関する演習 3)間接費用算出に関する演習 4)精神社会的費用算出に関する演習 1)～4)を修了後に、がん医療全般に関わる費用を提示する実習を行う。	費用対効果を評価する分析法に関する講義を行ったのち、以下の演習・実習を行う。 1)費用最小化分析演習 2)費用効果分析演習 3)費用効用分析演習 4)費用便益分析演習 1)～4)を修了後に、平易な題材を用いて費用対効果分析に関する実習を行う。		質調整生存年に関する講義を行ったのち、以下の演習・実習を行う。 1)質調整生存年 (Quality Adjusted Life Year : QALY) 算出に関する演習 2)障害調整生存年 (Disability Adjusted Life Year : DALY) 算出に関する演習 1)～2)を修了後に質調整生存年を算出する実習を行う。	
到達目標	1)がんに関わる費用の概略を述べることができる 2)医療費用を算出することができる 3)非医療費用を算出することができる 4)間接費用を算出することができる 5)精神社会的費用を算出することができる	1)費用最小化分析 2)費用効果分析 3)費用効用分析 4)費用便益分析 以上1)～4)について述べられることに加え実践することができる		1)質調整生存年 2)障害調整生存年 以上1)2)について述べられることに加え実践することができる	
事前事後学修	1)医療費についての動向を知る 2)通院方法に関する動向を知る 3)国民の平均賃金を知る 4)統計的生命価値に関する知見を得る 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。	費用対効果の各々の分析法に関する特徴を予習する。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。		調整生存年における基本的知識を予習する。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。	
評価方法	受講態度(発表、課題提出等) 20% レポート 80%	受講態度(発表、課題提出等) 20% レポート 80%		受講態度(発表、課題提出等) 20% レポート 80%	

■主な演習(講義・実習含む)

がん医療経済学Ⅰ (1年次)		がん医療経済学Ⅱ (2年次)		がん医療経済学Ⅲ (3年次)	
曜日	～	曜日	～	曜日	～
曜日	～	曜日	～	曜日	～
曜日	～	曜日	～	曜日	～
月曜日 15:00～15:30 がんに関わる費用について		月曜日 15:00～15:30 分析法に関する講義		月曜日 15:00～15:30 質調整・障害調整生存年に関する講義	
月曜日 15:30～17:00 がんに関する全費用の算出		水曜日 15:30～17:00 費用対効果分析実習		月曜日 15:30～17:00 質・障害調整生存年算出実習	
木曜日 14:00～15:00 各医療費用の算出		月曜日 15:30～17:00 各分析法の実践		水曜日 14:00～15:00 質・障害調整生存年算出演習	
曜日	～	曜日	～	曜日	～
曜日	～	曜日	～	曜日	～
曜日	～	曜日	～	曜日	～

教科書・参考書

医療技術・医薬品第4巻 講座*医療経済・政策学。Cost-Benefit Analysis by Boardman。

その他履修上の注意事項

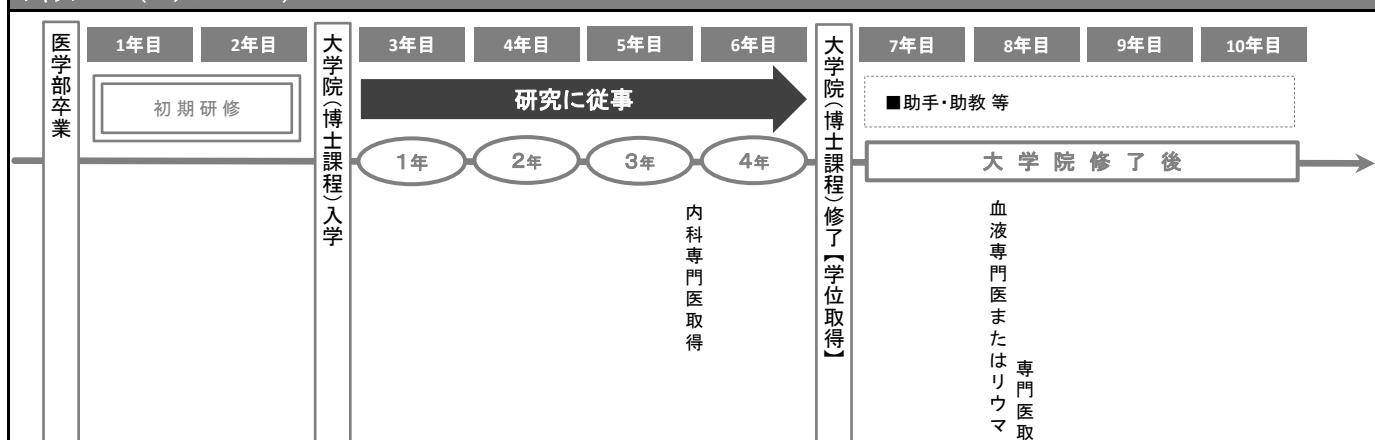
各種専門医(特にがん治療に関わる専門科)を取得後に本講座を受講すること、もしくはがん医療に関連する専門医取得コースを行いつつ、社会人大学院生として受講することが望ましい。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	血液腫瘍学、臨床腫瘍学 など
	共通科目	血液内科学特論

関連する専門医資格

内科専門医、血液専門医、リウマチ専門医

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。